

eALPS2.0で何ができるのか?

本年度から新しくなったe-Learningセンター。今現在もユーザーの皆様には有用なシステムやコンテンツを開発・制作しております。ここでは、e-Learningセンターが運営しております『eALPS2.0』の基本的機能をご紹介します。教員の皆様には是非活用していただければ幸いです。

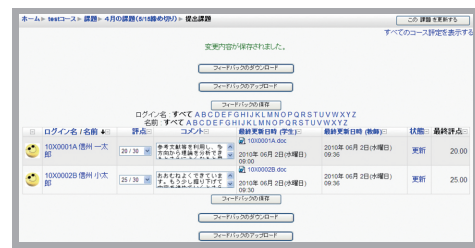
教材の掲載

一番簡単でよく使われる機能は、教材の掲載です。授業で、プリントやPowerPointの資料などを配布する場合には、eALPS2.0の教材掲載機能を使うことで、印刷せずに学生に配布することができます。下の図にもありますように、PowerPointやPDFを、そのままeALPS2.0のコースに掲載できます。この掲載は、簡単な操作で行うことができ、授業中であっても修正することができます。また、学生からは見えないようにすることもでき、授業の進行に応じて表示非表示を切り替えることもできます。学生は自宅からもeALPS2.0にアクセスすることができますので、授業時間外の学習のための参考資料や追加資料の掲載、課題作成のためのレポート書式の配布にも使用することができます。



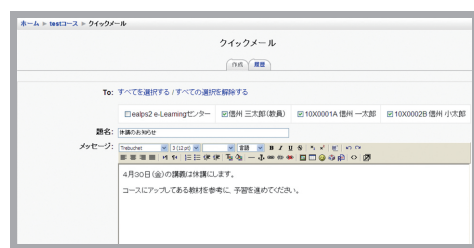
課題の提出

【教材の掲載】の図にもありますが、eALPS2.0を使って、レポートの提出をさせることができます。学生は、WordやExcelで作成したレポートを、ファイルのままeALPS2.0に提出し、教員はそのファイルを受け取ることができます。下の図は、教員がレポートを確認し採点やコメントを行っている画面です。このようにeALPS2.0でレポートを管理することにより、誰がいつ提出したか、誰が提出していないかの確認、各学生へのコメントの返信、さらに課題に対する採点管理もできるようになります。課題をeALPS2.0で管理させることで、課題の締め切りを設定し提出を自動で打ち切ることができるようになる他、学生も教員も、学外からレポートの提出・確認ができるようになります。



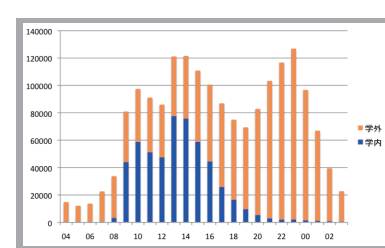
学生への連絡

eALPS2.0では、コース毎にユーザ管理を行っています。これを利用して、コース毎に学生へ連絡を行うことができます。学生への連絡を行う方法はいくつかありますが、一番簡単な方法がクイックメールです。図にもありますが、コースに登録されている教員・学生が一覧で表示されるので、送信したい相手にチェックを入れ、本文を入力することで、メールが送信されます。次の方法が、フォーラムです。これは電子掲示板で、掲示板に書き込んだ内容がメールでも配信されます。各コースの先頭に、「ニュースフォーラム」がありますが、これは、コース作成時に自動的に追加される掲示板で、教員のみ書き込むことができコース登録者全員にメール配信されます。これを使うことで、メールで配信された記事を、後々、学生がコース上で参照できるようになります。



学生のアクセス状況の把握

eALPS2.0では、学生が、いつ、どこから、どの教材・課題にアクセスしたのかを記録しております。これにより、学生の学習状況を把握することができます。下の図は、2009年度1年間の学生のアクセス数を、アクセス時間毎に集計したもので、青は学内からの、オレンジは学外からのアクセスを示します。このグラフから、昼の学内からよりも、夜の学外からのアクセスが多いことがわかります。つまり、eALPS2.0を時間外学習に使っており、その様子を知ることができます。このグラフは全学生の集計ですが、学生1人1人のアクセス状況も把握することができます。このように、eALPS2.0は、教材の掲示やディスカッション等に使用するだけでなく、学生の状況を把握し、個別指導の資料の収集にも使うこともできます。



e-LearningセンターNewsletter始めました。

本年度から新しいe-Learningセンターが発足しました。これまでのe-Learningセンターとの違いは?新しく何ができるようになったのか...今後の展望等々、e-Learningにまつわる情報を皆様に発信していきます!

新生e-Learningセンター

昨年秋から「e-Learningセンターの今後を考えるWG」等での議論を経て、本年4月より旧e-Learningセンターの組織を再編し、研究開発運用部門とICT活用支援部門の2部門からなる新しいe-Learningセンターがスタートしました。

これまでのセンターは、平成19年4月信州大学におけるe-Learningなどの情報通信技術を利用した教育の実施に必要な支援を行うセンターとして、平成21年3月までの期限付で発足しました。この間の活動内容は、教育用教材の作成・開発を行う教員への支援、教育支援システムの管理運用・開発、教育改善の啓発・支援・学習者に対する支援などを行ってきました。平成20年度からは、教育基盤システムをBlackboard社のシステムからオープンソースであるMoodleへ移行し、この2年間教育基盤システムの整備をめざし、全学的な基盤としての「eALPS2.0」の構築と安定運用を図ってきました。しかし、eALPSの利用状況は、1年次生を除くとまだ高くありません。

これからは過去3年間の活動を

土台として、いよいよ「単位制度の実質化」に向けてICTの多面的な利用を支援し、教育効果の記録と時間外学習の可視化を図り、将来は「教育の質保証」へ対応できる体制を作っていくことが必要です。

当面はeALPSの利用促進を全学的に図ることが課題です。そのために解決方法や教育支援システムを提案し、利用者が自分にあった教育支援システムを選択できる状況を整えることが必要です。eALPSの利用による効果は、授業時間外の学習状況が把握でき、教育プロセスの記録による学習過程の把握ができることです。これによって学生の学習状況の可視化が可能となります。可視化が可能となると、教室外での学習時間の確保など、「単位制度の実質化」のための基礎データの収集や分析ができ、就学指導の充実につながります。

組織的には、これまで全学の既存の組織に分散していたe-Learningセンターの機能を有効に活用すること、信大テレビとの機能別分化を図ること、学生パワーの効率的な活用を図ること、著作権などの

Contents	
■ 新生e-Learningセンター発足!	1
■ eALPSの利用促進とユーザビリティの向上に向けて	2
■ システムの安定的運営と機能拡充のために	3
■ eALPS2.0で何ができるのか?	4



赤羽 貞幸(あかはね さだゆき) 理事(教学・サービス担当)・副学長 e-Learningセンター長

危機管理等への対応などを考慮し、研究開発運用部門とICT活用支援部門の2部門からなる新しいセンターを組織しました。

研究開発運用部門は、開発運用チームとヘルプデスクチームからなり、利用方法の問い合わせへの対応、教育基盤システムの運用、システムの開発に当たります。ICT活用支援部門は、メディアコーディネータ、映像制作チーム、著作権チームからなり、ICTを活用した教育方法の提案、教育システムの調査研究、活用支援、教材開発などに当たります。

これらの業務を統括するセンターの副センター長およびICT活用支援部門長には、教育学部が専門の東原義訓教授(教育学部)、研究開発部門長にはこれまでe-Learningセンターの活動に係わってこられた新村正明准教授(工学部)に就任いただきました。各部門の実務を担当される職員の

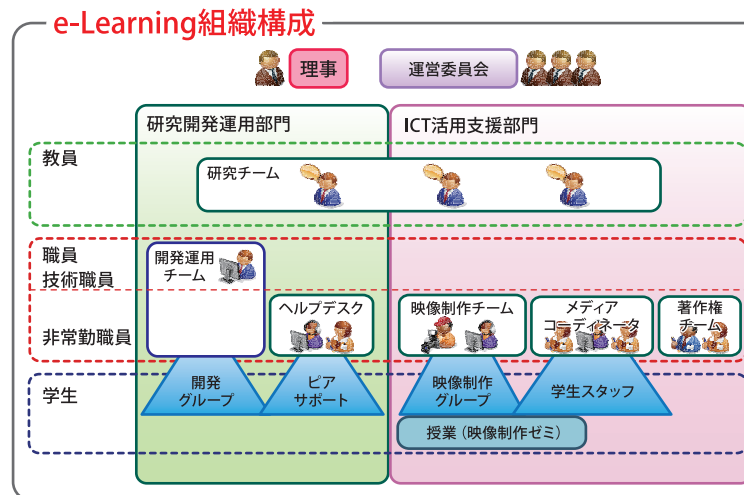
方々の仕事場は、松本キャンパス、

長野(工学)キャンパス、長野(教育)キャンパスと離れますが、部門長との連携を密にして業務に当たっていただいております。

信州大学におけるe-Learningなどの情報通信技術を利用した教育の実施に必要な支援を行うことがe-Learningセンターの目的です。このセンターの支援によって信州大学の教育研究が一層活性化し、中期計画の達成に大きく寄与することを期待しております。

最後に、新e-Learningセンターの発足に当たりましては、信州大学工学部情報工学科、教育学部ならびに附属教育実践総合センターにご協力ご支援をいただきましたことに深く感謝いたします。また、これからのe-Learningセンターの運営に当たりましては、全学の皆様のご協力ご支援をお願いいたします。

e-Learningセンター長 赤羽 貞幸



eALPSの利用促進とユーザビリティの向上に向けて

■はじめに

はじめまして、e-Learningセンター副センター長の東原義訓と申します。センター長の職務を補佐するとともに、ICT活用支援部門長としての仕事も担当しています。

ICT活用支援部門の主な仕事は、e-Learning等を利用した教育等の事例・方法の調査及び情報提供並びに研修会等の企画に関すること、e-Learning等を利用した教材等の作成及びシステム活用の支援に関すること、e-Learning等を利用した教材等に係る著作権及び肖像権に関することとされています。ICT活用支援部門は、メディアコーディネータチーム、映像制作チーム、著作権チームの3チームから構成され、それぞれ経験豊かな

スタッフが活躍してくれています。

■二つの利用形態

e-Learningには大きく二つの利用形態があります。

一つは、対面の授業をよりよいものにするためにe-Learningを組み合わせて使うという方法です。もうひとつは、対面の授業は行わないで、インターネット、Webサイトだけを使いながら学習していくという方法です。また、対面授業の代わりにTV会議システムを活用して双方向のやり取りをする方法と組み合わせ合わせた利用形態もあります。本レターでは、毎回、これらの利用形態の中から代表的な利用例をご紹介します。e-Learningの可能性をお知らせし、また、実施を計画されている先生方への参考としていただけたらと思っています。

■第一歩は「お知らせ」から

学生への伝達事項は、これまで、伝統的な掲示板に掲載したり、プリントを配布したり、口頭で伝えたりしてきました。e-Learningシステムを利用すると、教員から学生への「お知らせ」を、ネットワークに接続できるコンピュータがあれば、どこからでも、いつでも、掲示する



東原 義訓(ひがしばら よしのり) 教育学部教授

ことができます。もちろん学生も、いつでも、どこからでも「お知らせ」を参照できます。さらには、掲示したお知らせを、学生の電子メールアドレス宛に自動送信されるように設定しておくことも可能です。学生はいつでもお知らせを見られますから、メモをとる必要もなくなり、ミスもなくなります。

授業科目の履修登録申請に基づいて、e-Learningシステムの準備はすでに整っていますので、ACSUへログインしeALPS(e-Learningシステムの名称)のメニューさえクリックすれば、学生も教員も簡単にその授業のための

Webページを見ることができるようになっていきます。

どのようにしたら「お知らせ」を掲載できるのか、お知りになりたい方は、さっそく、ICT活用支援部門のメディアコーディネータまでご連絡ください。e-mailの場合には、eduel-sp@certms.shinshu-u.ac.jp、電話の場合は、831-4247または、026-237-6126まで、お気軽に声をかけてください。

e-Learningセンター副センター長
ICT活用支援部門長
東原 義訓



実践事例：教員からの連絡事項をWebページで常に見られる

e-Learningセンタースタッフ紹介

e-Learningの業務はシステム管理やメンテナンス、コンテンツ作成等、多岐に渡ります。これらの業務をサポートしているスタッフの皆様をご紹介します！

■茅野 基

主な仕事は、「高等教育コンソーシアム信州」の授業配信等の管理をしていますが、総合情報センターが導入した計算機端末の使用法やトラブルについての対応もしておりますので、気軽に相談してください。

■森下 孟

松本のe-Learningセンターにて学生支援、コンテンツ作成、高等教育コンソーシアム信州の遠隔講義運用支援を行っています。長野県内各地を飛び回っており、なかなか一箇所に留まっておらずごめんなさい。

m(_)_m

■多田 恭子 ICT活用支援部門 メディアコーディネータ

教育学部実践センターにおいて、e-Learningのサポート・制作を担当しています。e-Learningの長所を生かすお手伝いをできたらと思っています。どなたでもアイデアをそして愚痴を話しにいらしてください。お茶もお菓子もごぞいます。

■原田 恵美子 ICT活用支援部門 メディアコーディネータ

教育学部附属実践センターを拠点に活動しています。eALPSをより多くの授業で利用していただくためのサポートをしていきます。e-Learningセンターのホームページも近日公開予定です。

■早水 美津子 ICT活用支援部門 メディアコーディネータ

長野分室はいつも珈琲の香り漂うサロンのような部屋です。eALPSの利用やe-Learning教材の作成等でご相談にいらっしゃる先生方に「ここに来ると癒される」と時々言っていただけけるのがちょっと自慢です。

システムの安定的運営と機能拡充のために

■研究開発運用部門の業務

現在、e-Learningセンターでは、教育支援システムとして、MoodleというオープンソースのLMSを使用しております。ですが、このMoodleを導入するだけでは、信州大学の教育支援システムの機能を提供することができません。

信州大学は総合大学であり、構成する学部も様々で学部毎の状況も異なりますことから、教育支援システムに求められる機能も多岐に渡ります。さらに、カリキュラム改訂や学科改組等も発生します。このような要求・要望をとりまとめ、それを仕様書とし業者に発注することは、かなりの困難です。

そこで、研究開発運用部門では、信州大学としての教育支援システムに必要な機能を調査し、その機能を独自に開発・運用することで、信州大学の教育支援システムeALPSの構築を進めております。

■インフラの整備・運用

eALPSはクラウドシステム=eALPSは、多くの科目で利用いただくようになり、授業中にも使われております。このため、eALPSが停止

すると授業に支障がでるようになってきました。

そこでeALPSでは、サーバの仮想化技術、最近のキーワードであるクラウドの技術を使い、データのバックアップ、障害発生時の自動切り替え、大量のリクエストに対応する負荷分散等を行っております。また、これ以外の技術も導入し、eALPSの停止が極力発生しないシステムとするよう、研究開発を進めております。

■データ連携

eALPSを信州大学の教育支援システムとしてサービス提供をするためには、大学内の他のシステムとの連携が必要になります。

たとえば、ACSUにログインすると、各学部のeALPS一覧が表示され、自分のIDで使用できるようになります。これは、ACSUの認証システムと連携し、現在の利用者が誰であるのかを特定するシステムが用意されているためです。また、履修登録期間が終わると、履修登録した科目がマイコースに表示されるようになります。これは、キャンパス情報システムとのデータ連携により実現されています。

このように信州大学の他のシステムとの連携に必要な機能の研究開発も行っております。

■ヘルプデスク

多くの科目でeALPSを使用いただくようになり、先生方からは授業運営のための様々な要望をいただくようになりました。また、学生さんも含め、使い方の質問等をいただくことも多くあります。このため、皆様からの質問・要望に応えるためにヘルプデスクを運用しております。

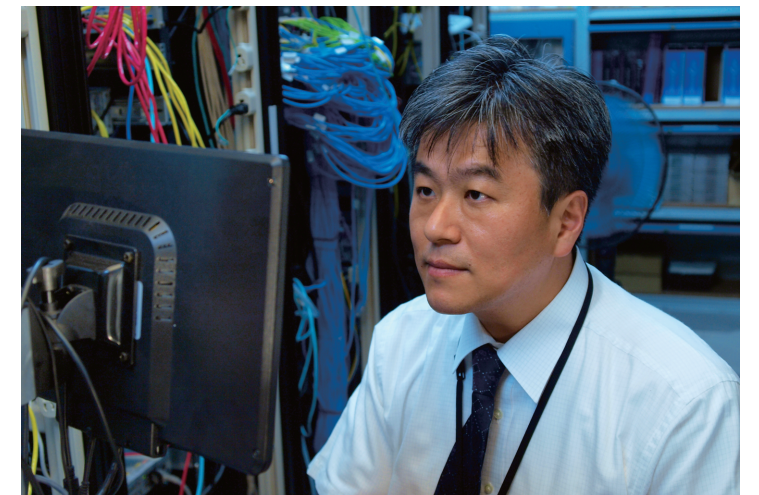
ヘルプデスクでは、質問への対応の他に、LMSのどの機能を使う

ことで先生方の要望を解決できるかの調査・提案も行い、eALPSの改良へとつなげております。

■eALPSのこれから

現在のeALPSはMoodleを中心に構成されておりますが、先生方の様々な要望に応えるには機能が不足しております。他の教育支援システムの導入など、eALPSがより便利になるよう、研究開発を進めます。

e-Learningセンター
研究開発運用部門長
新村 正明



新村 正明(にいむら まさあき) 工学部准教授

■上條 友規子 ICT活用支援部門 映像制作チーム

e-Learningのコンテンツ収録や信州大学テレビの番組を制作する学生スタッフのサポートをしています。クリエイティブな学生さん達は個性的、なかなか一筋縄ではいきませんが、皆かわいい子たちです。

■渡邊 悦之 ICT活用支援部門 映像制作チーム

信州大学テレビの学生スタッフ対応やnewsletter、番組コンテンツの作成等しております。勉強やアルバイトをしつつ番組制作をしてくれている学生スタッフに頭が上がりません。

■浜 真美 ICT活用支援部門 著作権チーム

e-Learningコンテンツや信州大学テレビの番組について、著作権管理をしています。法律に関して難しい事も多く、日々勉強です。若い頃のように新しい事がすぐ覚えられず脳の老化を感じる今日この頃…(泣)

■長岡 暁子 研究開発運用部門 ヘルプデスク

松本でヘルプデスクを担当しています。eALPS2.0に関するサポートをしていますので、使い方等困ったことがありましたらご相談ください。できるだけ希望に沿った利用方法を提案できるよう努めます。

■石田 美代子 研究開発運用部門 ヘルプデスク

長野の若里キャンパスでヘルプデスクをしています。新入学で不安な学生さんも、e-Learningの入り口でつまづくことのないようなサポートを心がけています。

■森下 愛 研究開発運用部門 ヘルプデスク

全学教育機構2階にあるe-Learningセンターにいます。主にeALPSについて質問に来る学生さんたちのサポートをしています。また、授業や講演のe-Learningコンテンツを作成したり、貸し出し用機材の管理をしています。